

【ノートを使った受験勉強方法で“文に変換する力”を鍛える】

1. ノートを使った受験勉強方法とは

ノートを使った受験勉強方法とは、学んだことをノートに手で書く受験勉強方法です。学んだことをノートに手で書くことで学んだことが頭の中に確実に残ります。ワードなどのソフトを使って学んだことをパソコンの画面上に書くよりノートを使った方が学んだことが頭の中に確実に残ります。学んだことをノートに手で書くことで脳が活発に活動するのかもしれませんが、科学的な根拠はありません。

ただ、ノートを使った受験勉強方法での注意点ががあります。注意点とは、学んだことを工夫してノートに書くことです。具体的には以下のことです。

①学んだことを自分の言葉に置き換えて書く。

*例えば、学んだことを要約してノートに書くことです。要約するためには学んだことを理解する必要があります。しかし、理解することで学んだことが頭の中に確実に残ります。また、要約した内容が解答としてそのまま使えることがあります。

②学んだことが記憶しやすいように書く。

③学んだことが復習しやすいように書く。

④蛍光ペンや色鉛筆などを使って重要なことが目立つように書く。

⑤学んだことを丁寧に書くのではなく走り書き程度で書く。

*走り書き程度に書くことで多くのことをノートに書くことができます。丁寧に書くと書くための時間がかかります。走り書き程度で書くことで勉強時間を有効に使うことができます。学んだことをノートに工夫して書いた例をP3に示します。

学んだこと、例えば、教材に書いてあることをそのままノートに書き写してもノートを使った受験勉強方法の成果は出ません。これは、教材をコピーしてノートに貼り付けることと同じことだからです。

2. 文に変換する力が必要

文に変換する力とは、頭の中に浮かんだ解答を文に変換する力のことです^{注1)}。試験では、「この問題の解答は〇〇について書こう」のように解答が頭の中に浮かんだらそれを文に変換し、内容が明確に伝わる文で答案用紙にこれを書きます。頭の中に浮かんだことを確実に変換しないと「自分が考えていたことと少し違うな」などのような変換ミスが発生する可能性があります。

す。

記述式試験では、合格点が取れる解答を考えることが最も重要です。しかし、文に変換することも重要です。文に変換された内容が評価されるからです。また、変換ミスがあれば自分が考えた解答が適切に評価されないからです。

注 1) : 「技術士試験対策・ダウンロードコーナー」の中の「日常業務の中で“文に変換する力”を鍛える」の資料を参照のこと

3. ノートを使った受験勉強方法の中で鍛える

文に変換する力は日常業務の中で鍛えることができます^{注2)}。また、ノートを使った受験勉強方法の中でも鍛えることができます。「1. ノートを使った受験勉強方法とは」の中で解説した①を実践することで文に変換する力を鍛えることができるからです。つまり、「学んだことを自分の言葉に置き換えて書くこと」で文に変換する力を鍛えることができます。

学んだことを自分の言葉に置き換えて書くことは、学んだことを文に変換してノートに書くことです。これは、試験での「頭の中に浮かんだ解答を文に変換すること」と同じことです。

例えば、学んだことの要約をノートに書けば要約する力がレベルアップします。要約する力がレベルアップすれば、頭の中に浮かんだ解答を文に変換する力もレベルアップします。「頭の中に浮かんだ解答を文に変換すること＝頭の中に浮かんだ解答の要約を考えること」と考えることができるからです。

注 2) : 「技術士試験対策・ダウンロードコーナー」の中の「日常業務の中で“文に変換する力”を鍛える」の資料を参照のこと

4. 頭の中に浮かんだ解答を文に変換する力を鍛える

記述式試験は試験時間と闘いです。試験時間の中で論文（答案）を書き終えるには、「解答を考えること」、「頭の中に浮かんだ解答を文に変換すること」、「変換したことを内容が明確に伝わる文で答案用紙に書くこと」のそれぞれの作業を確実に行う必要があります。

合格点を取るための技術や知識を学ぶこと、日常業務の中だけではなくノートを使った受験勉強方法の中で頭の中に浮かんだ解答を文に変換する力を鍛えること、文の作成力を鍛えることで試験時間との闘いを制することができます。

以 上

No.

Date

環境問題の問題点

- ① 環境のための資金がこれほど少ない。今後も増やるのが容易でない。裏にね



具体的な環境対策が立案しにくい。

- ⊙ (a) 因果関係が不明だ
 - (b) 対策技術が不十分だ
- 等の議論になる



科学的な根拠をいかに示すか
経済的な負担をどう減らすか

地球環境問題は、地球環境を素材とした経済問題である

- ② 環境は人間活動による。資源の供給と無用物の捨てる場としての働きを担っているが、~~しかし~~ その両者の間でも、環境使用の対価は不十分にか支払われている。
「採り得」「捨てる得」が生み出される!!



環境への捨てる得、自然の採り得を改め、
環境の使用料をコストとして織り込む。経済への
舵を切る必要が起る。